



「幼保小連携だより」

# 育ちと学びをつなぐ

～子どもたちのためのスタートカリキュラムを実施するにあたって～  
令和2年度「幼保小接続期研修会」をeラーニングで受講できます。



入学式・始業式以来、長期化していた休校期間が明け、教育活動が再開されました。段階的ではありますが、1年生にとっては本格的な小学校生活のスタートとなります。生活リズムを戻し、感染防止や心のケアを図りながら子ども主体の授業づくり、学級づくりに向かっていくことは容易ではありませんが、子どもたちの「学びたい」という意欲を信じ、肯定的な見方で、一人ひとりが培ってきた力を最大限に発揮させていく丁寧なかかわりが、求められています。

そこで、5月25日（月）横浜市立池上小学校での「幼保小接続期研修会」をオンライン会議システムを利用して実施し、池上小の1年生担任や校長先生からの発信、國學院大学の田村学教授と吉永安里准教授からの指導講評を動画資料としてまとめ、eラーニングで受講できる環境を整えました。子どもたちが小学校生活へ円滑に接続できるようスタートカリキュラムへの理解を深め、実践の手立てを講じるために、参考にさせていただければと思います。（詳細は、6月2日付 こ保人第136号を参照。）

## ～こういう時だからこそ、重要な役割を果たすスタートカリキュラム～

1年生の子どもたちは、幼児期の主体的な遊びや生活を通して、たくさんのことを学んできています。その育ちと学びを尊重し、積み重ね、広げていくという考え方を大切に…。

あらためて思い起こしてみたいのですが、就学前の子どもたちは、園のリーダーとして自覚と自信に満ち、年齢の小さな子たちの世話をしたり、様々なことを教えたり、支えたりといった姿を見せてきました。また、卒園前には小学校生活がスタートすることへの期待や意欲に満ちていました。

新しい環境では、誰もが緊張し不安でいっぱいです。学校が再開されたたん、これまでの経験がまるでなかったかのように、何もできない幼い子のように捉えられてしまえば、せっかくの期待や意欲をしばませてしまいます。どの教室でも1年生の子どもたちが期待した通り、「友達といっしょはうれしいな」「勉強するって楽しい」「学校っていいな」と思えるような、そんな時間を焦ることなく、じっくりと作っていきたいものです。

### 第一回幼保小接続期研修会③

～「学校再開後の新1年生の学びを支えるために大切なこと」～

スタートカリキュラムでは、何が大切か？

★一人ひとりの育ちを本気で認め、  
信じる教師の姿勢が子どもの  
安心感のつながる



↓  
・一人ひとりのよさを引き出す  
・子ども同士の認め合い  
・子どもの自信・居場所  
←支援の方法を幼保小で共有、



みなさんの学校でも、健康と安全を最優先にしながら、スタートカリキュラムをどう実施するか、創意工夫を考えていらっしゃると思います。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮し、子どもたち一人ひとりが安心して学び、自己発揮できる環境を整えるために、研修動画を通してポイントを確認し、教職員のみなさんで自校の取組の方向性を共有していただければ幸いです。以下は、研修内容の一部を紹介します。

### 子どもたちのつながりを大切にすること



数にして20~30を超える園から入学してきた子どもたちの中には、一つの園からたくさんの友達といっしょに入学してきた子もいれば、たった一人で入学してきた子もいると思います。まずは、一人ひとりが新しい人間関係を築きくことができるように心をほぐし、安心感を持てるようにしたいものです。一方、「密閉」「密集」「密接」を避ける必要があるため、スタートカリキュラムで行う通常の「なかよしタイム」のように、先生や友達と大勢で交流したり、スキンシップを図ったりする活動はできません。そこで、直接触れ合わなく

ても人と関わる楽しさが感じられるゲームや言葉遊び、外遊び、リズム遊びやダンス、ICTを活用した読み聞かせ等、ソーシャルディスタンスを確保して活動を工夫して行い、つながりを作りながら、子どもたちの居場所を広げていってほしいと思います。

### 学習では、きっかけを大切にすること

1年生の子どもたちは、園で楽しく活動するために必要感をもって、文字や記号、数量にかかわる感覚を豊かにしてきました。また、友達と協働的に学んだり、自己主張したり、自らの目標に向かい最後まであきらめずにやりとげたりすることを通して、学びに向かう気持ちを育んできました。

数十日にわたる学習の遅れを取り戻すことを優先にするのではなく、「園や家でできていたことが学校でもできた」という自信につながるように、子どもたちの遊びや生活の中で見られる意欲や好奇心、対象との関わりで生じる気づきや発見等との連続性を図り、具体的な活動や体験を取り入れた学び、生活に即した学びを柔軟な発想で進めてほしいと思います。

### 子どもの意識を大切にしたい時間割を工夫する

- 朝の会から1時間目を連続した時間に設定してみる
- 15分程度の短い時間を活用して教科学習につなげる

### 園の経験を生かす

- 「園ではどうだった？」
- 担任や上級生の関わり方  
→できることは見守る

また、子どもたちは、自分たちの生活に必要なきまりや約束事があることも、園で友達と関わりながら学んできています。感染予防の観点からは、指示や一斉指導する場面は当然必要になりますが、家庭や通っていた園でのそれぞれの経験や教育活動を尊重し、「園ではどうだった？」をキーワードにして、子ども自身が主体的に生活をつくっていく機会も大切にしてほしいと思います。

ぜひ肯定的な子ども観をもって、入学前までの育ちを小学校での学びにつなげていってください。

eラーニングを受講した際には、簡単なアンケートにもぜひ、ご協力ください。今後の事業に活用させていただきますので、よろしくお願いいたします。